

情報公開文書

研究の名称	出血性十二指腸潰瘍に対する高周波止血鉗子を用いた内視鏡的止血術の安全性の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一朗
研究の概要	<p>【研究対象者】 2008年3月1日から2022年5月31日の期間に当院で行われた出血性十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血術症例</p> <p>【研究の目的・意義】 上部消化管出血は、日常臨床でしばしば遭遇し、内視鏡的止血術が有効です。その中で、高周波凝固法は最もよく使われる方法の一つで、成功率が高く、出血性胃潰瘍や胃ESD後出血に対する高周波凝固法の有効性と安全性は報告されています。しかし、十二指腸潰瘍については報告されていません。本研究の目的は、出血性十二指腸潰瘍に対する軟凝固法の止血効果をヘモクリップと比較し、評価することとしました。</p> <p>【研究の方法】 診療録の情報から後方視的に治療成績について検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2024年10月30日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、学会発表および英文誌への論文投稿を行います。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>電子診療録より以下の情報を使用します。</p> <p>年齢、性別、既往歴、内服歴、ピロリ感染、病変部位、治療日、処置時間、使用した内視鏡機種、止血方法、偶発症の有無・種類(穿孔、緊急手術)、輸血の有無、再出血率、再出血までの期間、一ヶ月以内の死亡、死因、在院日数 本研究では他機関への資料提供は行いません。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 070-434-7301 FAX 076-434-5027 E-mail sshimada@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 第三内科 島田清太郎</p>